

構造設計1級建築士

1. 試験の現状把握

構造設計1級建築士は、9月上旬に開催される「講義」を受けて、10月下旬に行う試験「修了考査」に合格すると取得できる。修了考査は、下記①と②の考査区分に分かれる。修了考査は、講義で配布される「講習テキスト」を持ち込むことができる(マーク、付箋等可)。

- ① 法適合確認(構造関係規定に関する記述式5問)
- ② 構造製図(建築物の構造に関する4選択一式20問、記述式3問)

研究会の実行委員1名は、長年構造設計をしているベテランであるが、1回目の受験では、過去問学習をしないで受験し合格できなかった(2年目に昨年問題を参考に合格した)。受験すると分かるが、問題はかなり難しく、構造設計ベテラン者でも簡単に合格できない。ただし、過去問を学習すると、比較的容易に合格できるが、過去問を解説した一般書籍が販売されていないので、HPで解説することとした。

2. 1回で合格する方法

構造設計1級建築士の合格率は、年度により10~30%である。

1回の試験で合格するには、過去問の学習以外にないと推定する。逆の言い方をすると、過去問をしっかり学習すれば合格できる試験でもある。構造設計1級建築士は、構造設計のプロフェッショナルな方が受験するものである。当研究会は、センターから許諾を頂いた過去問そのものの提供と、簡単な解説をしている。構造設計1級建築士の一般書籍による過去問解説書は販売されていない(資格学校では40万円を超える講座で解説されている)。当研究会は、簡単な過去問解説であるが、H21から最新年度の解説をしているので、活用頂きたい。

なお、構造設計1級建築士の講座は、会員講座のみである(下記参照)。

また、平成28年の受験フローを下記に示す。

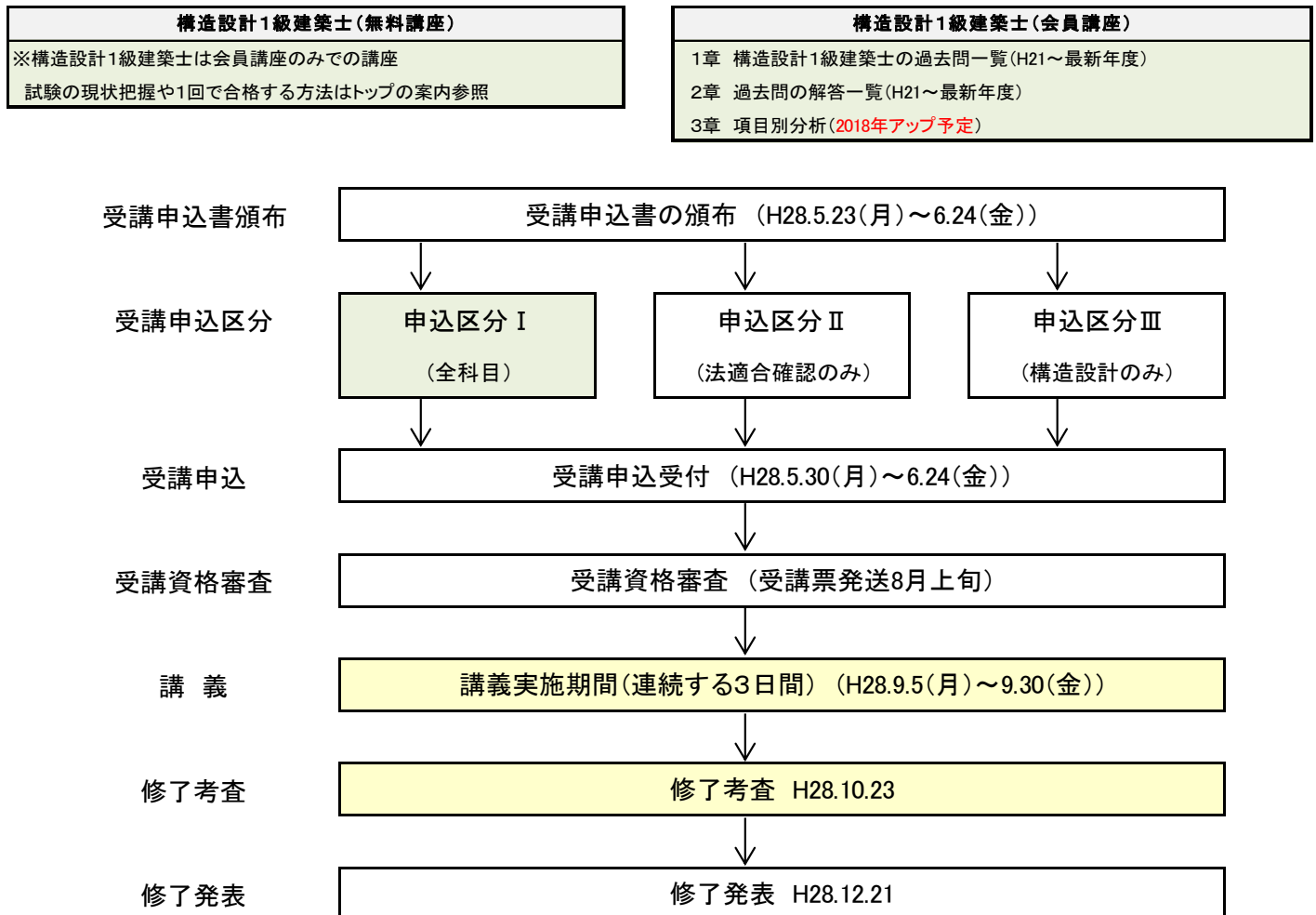


図1 平成28年度の構造設計1級建築士の資格取得までのフロー